

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 栃木市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 小規模校を活性化させる場合の教育活動の高度化
～小規模校のメリットを生かしデメリットを解消するための研究～
4. 研究課題 :
- (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策
 - ア. 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
(研究課題)
 - ①きめ細かな指導による学力の向上
※各児童の学習評価に対応した個別指導の推進
 - ②低学年からの英語教育によるコミュニケーション力の育成
 - ③各種検定制度を活用した学習意欲の向上
 - ④ICT機器活用及びプレゼンテーション力の向上
 - イ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のメリットを最大化させる先進的な方策
(研究課題)
 - ①外部講師等の活用による自己表現パフォーマンスの向上
 - (2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策
 - ア. 学校間ネットワークの構築
(研究課題)
 - ①ICT活用からの遠隔地の学校との通信交流、意見交換等による多様な考えを育むコミュニケーション活動の確保
 - イ. 社会教育と密接に連携した学校教育活動
(研究課題)
 - ①「とちぎ未来アシストネット」事業と連携した多様なコミュニケーションの確保
 - ウ. 児童生徒の増加や児童生徒集団の多様性確保
(研究課題)
 - ①小規模特認校制度を活用した児童数の増加
 - エ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のデメリットを最小化し、メリットを最大化させる先進的な取組
(研究課題)
 - ①学校の「コミュニティ・スクール」化を図り、地域連携のプロジェクトを行う。

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

・‘少人数’を生かしたきめ細かい指導の有益性を認識しながら、その実践を図るとともに、小規模校において課題とされる‘コミュニケーション能力の向上’を目指すための機会の充実について、地域連携による他世代交流や外部講師の活用、ICT教育の推進等の方策を進めていく。

・コミュニティ・スクールにより設置された学校運営協議会を学校と地域を繋ぐ核として、地域の教育力を生かした特色ある教育を小規模特認校として推進する。

(2) 調査研究の実施状況（平成30年度）

4月	
5月	
6月	○演劇鑑賞体験会開催（国府南小）
7月	○水辺における自然体験活動（大宮南小） ○漢字検定（大宮南小）
8月	○「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進会議」開催
9月	○オープンスクール及び小規模特認校説明会（各学校）
10月	○地域行事PR動画作成開始（国府南小） ○学校教育魅力化フォーラム参加
11月	○各学校の学校運営協議会の開催
12月	
1月	○オカリナ演奏会開催（真名子小） ○コミュニティ・スクール先進地視察（横浜市：東山田中学校）
2月	○落語発表会（小野寺北小） ○地域行事PR動画試写会（国府南小） ○各学校の学校運営協議会の開催 ○研究報告まとめ
3月	

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>研究課題(1)「小規模校のメリットを最大化させる方策」の5つの具体的目標に対して、その達成状況等を以下にまとめる。</p> <p>①「きめ細やかな教科指導による確かな学力の向上」について 日々の授業においても個別指導の場を多く設けるような展開の工夫や個別習熟度の把握に、全教職員が努めている。その成果としては、児童や保護者による学校への高い評価に表れている。</p> <p>②「低学年からの英語教育によるコミュニケーション力の育成」について 低学年から取り組んできた英語によるコミュニケーションの実践の機会として、修学旅行や校外学習で外国人観光客に積極的に話しかけることができた。</p> <p>③「各種検定制度を活用した学習意欲の向上」について 検定試験を受けることで、学習への意欲を高めるとともに、子ども同士の学び合いの機会を増やした。</p> <p>④「ICT機器を活用したプレゼンテーション活動の充実」について 少人数ゆえの発表機会の多さから、表現力の向上が図られた。</p> <p>⑤「これまでの成果と課題を踏まえた有効性のある取組の推進」について 平成28年度・29年度に進めてきた研究の成果として確認できた‘少人数であることを生かした個別指導の充実や発表等の個人が活躍できる機会の設定’をより推進させることを示しているが、研究校全てにおいて、授業における個を大切にす指導の充実がよく図られていた。前述したが、子どもたち一人一人を大切にす指導への児童や保護者からの評価が高いことが、教職員のモチベーションにつながり、よい相乗効果をもたらしているようである。課題としては、教師個人レベルでの質の向上ではなく学校全体での指導の質の向上を図ることが想定されていた。この課題については、小規模特認校であることを学校長自らが意識した魅力ある学校づくりを強く進めていることで、学校全体での質の向上につながっている。</p>
<p>研究課題(2)「小規模特認校のデメリットを最小化させる方策」の5つの具体的目標に対して、その達成状況等を以下にまとめる。</p> <p>①「学校間ネットワークの構築」について これまで行ってきたインターネット通話アプリ等による学校間での通信交流を進めて、児童間での意見交換の活性化を図ることができている。</p> <p>②「とちぎ未来アシストネットを活用した地域による学習支援の充実」について 本市の平成30年度「とちぎ未来アシストネット」推進事業における学校支援ボランティア活動実績では、その活動の年間延べ人数が45万3,144人、年間延べ活動回数が9,148回となった。特に研究校4校については、地域との密接な関係もあり、自然体験学習をはじめ様々な場面で地域住民から支援されている。 このような学習の場では、他世代交流も図られ、多様な価値観に学ぶ機会になるとともに、コミュニケーション力の醸成にもつながった。</p> <p>③「コミュニティ・スクールを活用した地域ぐるみの教育の充実」について 研究校では、各学校運営協議会が小規模特認校推進会議を兼ねることになっており、小規模校として魅力ある学校づくりをするための協議に熱心に取り組んでいた。 また今年度は、研究校の学校運営協議会委員の先進地への視察を行った。視察先の横浜市立東山田中学校及び地域学校協働本部「やまたろう本部」での研修は、参加者にとって有意義であったようで、その取組内容について早速、地域住民の会議で資料を配布し、発信していた。</p> <p>④「外部講師等による魅力ある授業を通じた、コミュニケーション力の向上」について 魅力ある授業・教育活動の実践とそれを外部へ発信することは、小規模特認校である各研究校の共通課題である。 国府南小では、地域在住の卒業生がブランディングデザイナーとしてのキャリアやコネクションを使い、「oneclass」プロジェクトとして外部講師を招聘してコミュニケーション学習やプログラミング学習、また地域行事のPR動画の作成等行っていた。多くの事例をマスコミにより効果的に広めることにも努めていた。 他の学校においても、プロによるオカリナ演奏や落語実演を行うとともに、子どもたちに体験させることでの表現力の向上等を図っていた。その際、子どもたちの発表を地域住民を学校に招いて行っていたことは、子どもたちとの交流を深めることにつながった。</p>

※必要に応じて、適宜、表を追加・削除すること。

(2) 成果物等

- ・小規模特認校パンフレット
- ・新聞記事（外部講師による「魅力ある授業」関連）
- ・DVD（国府南小地域行事PR動画）

(3) 今後の取組予定

3年間の本取組において、各学校で培われた「魅力ある学校」につながる「魅力ある授業づくり」を今後も大切にしていきたい。なおその際、専門的な知識や技能を持つ外部講師だけに頼るのではなく、学習形態の工夫や地域人材の活用等を生かした内容で継続可能な活動を進めていくことを心掛ける。

また、本実践研究内容をまとめた資料は、平成30年10月16日開催の「学校教育魅力化フォーラム（文部科学省）」で発表させていただいたが、その内容については、今後小規模特認校制度の市民等への啓発活動に活用していく。